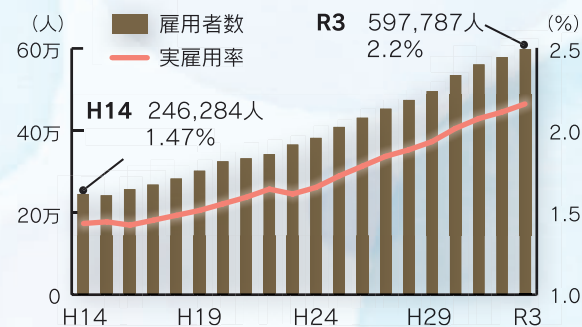


雇用される障がいのある人の数は 年々上昇 data



民間企業での障がい者雇用者数

(厚生労働省 令和3年障害者雇用状況の集計結果)

「合理的配慮」が義務化 interview

双方向に配慮できる社会に

2021年に、正当な理由なく障がいを理由に差別することを禁止する「障害者差別解消法」が改正。共生社会を実現するために障がい者にとってのバリアを無くす「合理的配慮」が、お店や職場など全ての事業所に義務化されました。

事業所は、過度な負担にならない程度で対応することが求められます。ただ、これには障がい者の声も必要。受け身ではなく、自分ができること、できないことを伝えていかなければなりません。

事業者にとっては「思いやり」ではなくて義務。でも、障がい者の意見を聞いて、どうしても難しければ代替案を出してもいいんです。大事なのは、最大限の配慮に取り組むこと。そうした双方向のコミュニケーションを取れるようになることが、合理的配慮の上で重要だと思います。

宇城圏域障がい者
支援協議会 会長
熊本学園大学
非常勤講師
あいとう きぬよ
相藤 絹代 さん

希望の里ホンダ(株)とは

障がいのある人々の社会的自立化の促進を目的に、1985年に九州初の第3セクター方式として本田技研工業(株)と熊本県、宇城市の共同出資で設立。11月1日現在で健常者47人と障がい者25人が共に働く。



自動の蛇口2口と停電に備えた手動が1口の手洗い場。3口とも高さが異なり、車イスも入りやすいように設計されている。



車イスでも健常者でも作業をしやすいように、高さを調整できる作業台を設置。

そう。「注意するときは真剣な表情を心掛けます。聴覚障がい者は顔を見る、これは猿渡さんから教わったこと。」と互いに連携を取っています。

また、朝礼では会社の行事や伝達事項をプロジェクトで説明。不具合などがある場合は、正確に伝えなければいけないため、手話だけで伝わらない細かいところは分かりやすく工夫しています。写真などを使い伝え漏れがないようにすることで、業務が円滑に運んでいます。



朝礼の様子 リーダーが手話とプロジェクターを使い説明する



障がいと共に生きる

特集

あいふー

一緒に働く

”できる限りの配慮で、円滑な業務展開

“

コミュニケーションを大切に

猿渡さんが勤務するのが、松橋町にある希望の里ホンダ(株)。そこで、上司として共に働くのが小畑さんです。同社では、コミュニケーションを大事にしています。社長自身が、年に2度全社員一人一人と直接面談。聴覚障がい者には手話通訳を付けて、ざっくばらんに話をします。

「私自身もできる限り雑談も含め話をしています。そのおかげか、みんな困っていることをよく伝えに来てくれて。夏に暑くて仕方ないと聞くと扇風機

分かりやすく伝える工夫

同社には、小畑さんを含めて手話ができる人も多く、現在7人が手話奉仕員養成講座に通室。無事修了すると、費用が免除になる制度も用意されています。

ただ、手話だけでは通じないことも。小畑さんは特に笑う、怒るなど表情を大事にしている



希望の里ホンダ(株)
製造課 課長 小畑 貴彦 さん